

2020 年度川俣町×近畿大学 プロジェクト

1.1 はじめに

本報告書は、福島県が施している「大学生等による地域づくり支援事業」における 福島県伊達郡川俣町福田地区での今年度の調査成果及び研究成果を記したものである。構成としては、第1章はサイクルツーリズムの実証実験を行った1年間の成果、そして今後の展望を記している。第2章ではウェブサイトの制作から今後の活用方法を記している。第3章はおじま交流館の館長さんとの会談の内容を記している。第4章では福田地区の方々との懇談会から得た福田地区の現状、今後の活動について記している。そして、第5章で我々の活動全体の反省点とその対策及び今年度の4月からの新たな事業案を記している。

1.2 目的

大学生の柔軟な発想を活かし、川俣町福田地区を中心としたコミュニティの維持及び活性化を目的とする。

1.3 研究方針とチーム構成

我々は、近畿大学総合社会学部、国際学部と経営学部の学生で構成されており、目的である国際ツーリズム、エコツーリズムといった観点から、過疎化や高齢化の課題を解消に近づける地域創生案を提案することである。

1.4 背景

チーム構成を活かした提案を考えながら、人口減少や交通アクセスの改善などの社会問題に向き合った。また、東日本大震災の影響、例えば風評被害により偏見が植えつけられるといったこと。福島県川俣町もその被害を受ける地域の1つでした。しかし、それを払拭すれば再興できるといった単純な構造でなかったことが、実地調査や文献調査をしていくにつれて理解できたように思われる。

我々にできることは何か。そして、何よりも地元住民の方にも協力してもらうにはどうすればいいのか。どちらかの一方通行ではいけないように感じた。双方が頑張りたい、より良い地域を作りたいと思えるような提案を心がけた。

「川俣町までのバスって少なく、定期代も高い」 サイクルツーリズムを提案内容に掲げた理由として、「アクセスの悪さ」を挙げられ、これをサイクルツーリズムによって改善できないかを検討した。

また、福島県内でも複数のサイクリングロードがあり、担当した福田地区では道路が比較的整っており、再整備の余地が少なく済むなどの観点から、サイクルツーリズムの取り組み やすさを裏付けられると考えている。

そして、「人口減少」に歯止めをかけるべく、サイクリング人口を筆頭に、関係人口を取り込んでいき福島県に、川俣町に、訪れてもらえるような魅力を作り出す。風評被害を取っ払うことを目的としている。そして何よりも我々が地域の方々との交流を持つことで、人生により多くの楽しさを感じてもらうことが大きな理由である。

1.5 今年度の活動のまとめ

第1章 サイクルツーリズム

この章では、今年我々が取り組んできたサイクルツーリズムの成果について記す。サイクルツーリズムは、本プロジェクトが始まったときに提案した、このプロジェクトの根幹事業である。

コースマップ制作

今年完成した3つのコースのマップだ。昨年の報告書では5つのコースを検討していたが、そのうち2つのコースを諸々の理由から断念したが新たに初級者用コースの案が出ているので来年度以降の訪問時から新たなコースマップを作成していく予定だ。

コースは①長寿泉コース、②飯野堰堤公園コース、③駒桜コースの3つのコースマップが完成した。どのコースもおじまふるさと交流館を拠点にしてコースを作成している。これらのコースマップは原本ができており、いつでも印刷ができる状態にある。また、第2章で説明するが、おじま交流館のサイトとコースマップ(原本)にはQRコードがあり、このQRコードをスマホで読み取ると、Google Mapにコースが表示される仕組みになっている。

レンタサイクル

まず我々はおじまふるさと交流館(以下「交流館」)を拠点とし、活動をしている。交流館を拠点に選んだ事には理由がある。一つ目は廃校をリノベーションし、宿泊施設として利用されていることに魅力を感じたからだ。廃校を用いたリノベーションは注目度が高く、学生時代の雰囲気を経験できることから新規顧客が増える事を予想した。二つ目は館長である佐藤様が快く我々を受け入れてくれた事だ。交流館の方々の協力が無い限り、我々の活動は前に進めることができない。そのため佐藤様が快く受け入れて下さり、我々の活動に協力及びアドバイスを頂けることに大変感謝している。

そして我々が考えた末に辿り着いた案が交流館で自転車とヘルメットの貸し出しを導入することで川俣町の新たな魅力が再発見されるのではないかと予想している。交通の利便性の悪さを考慮すると自転車での移動は健康的で歩いていくよりも早く移動できるので合理的であると考えた。そして近年のサイクリング需要の高まりからサイクリスト客も見込めるのではないかと予想している。今年度の現地調査の際に追加で2台のロードバイクと1台のクロスバイク、合計3台を新たに導入する予定だった。しかし、コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ訪問を断念したことで今年度の活動での新たな自転車の導入はできなかった。尚、導入予定の3台の自転車は交流館に預かってもらっている。



① 長寿泉コース

このコースは交流館をスタート地点として長寿泉やつぎたて花工房を通り交流館に戻ってくるコースとなっている。コースの全長は約16キロあり、所要時間は約1時間である。アップダウンが激しいため、かなりの体力が必要

要で、上級者用のコースとして作成した。道中に松月堂本店やつぎたて花工房などの場所があり、休憩やちょっとした食事ができるところをコースに入れた。そして山頂にはコースの名前の由来にもなっている長寿線と呼ばれる湧き水があり、その水を飲むことで長寿になれるという。また、伊達市の有形文化財である、下神山摩崖仏が見ることができるので趣があるコースになっている。

1 つぎたて花工房
庭園に囲まれたくつろげる宿。イベントスペース、大浴場があり、食事もできる。

2 松月堂本店
地元の方々からも愛されている老舗菓子店。お饅頭やお菓子の他、期間限定のいちご大福が人気。

3 下神山摩崖仏
伊達市の有形文化財。花崗岩(かこうがん)に掘られた観音像は二百年の風雪によって風化はしているが、住時の面影を感じられる。

4 長寿水神
長寿山中腹から湧き出ている湧水であり、その水を飲むと10年長生きすると言われていた。

おじま交流館を拠点に長寿泉エリアをぐるっと一周コース！
美味しい食べ物を味わえ、有形文化財や言い伝えのある神社を迎える所が見どころ！春には綺麗な桜も！ 全長16キロ・所要時間約1時間

② 飯野堰堤公園コース

1 飯野堰堤公園入口
飯野堰堤公園のダム
春には2キロに及ぶ桜並木會
秋には美しい紅葉會が
みられるスポット！

2 彌陀寺
清川製菓製パンの
油パン
こしあんの入った油パン
がおすすめ！

道中のお店で美味しいものを食べながら行くもよし、景色を楽しむもよし！平坦な道で市街地も通るので女性の方にも安心してサイクリングして頂けます。♂♀
所要時間は2~3時間！全長30キロ！

このコースも長寿泉コース同様おじまふるさと交流館からのスタートし飯野堰堤公園をゴールとしたコースとなっている。コースの全長は約 30 キロあり、所要時間は約 2 時間半である。中級者用コースとして作成したので、あまりアップダウンが無い代わりに全長を長くした。道を少し外れたところに頭陀寺がある。また、道中に清川製菓製パン店があり、腹ごしらえに最適な場所がある。ゴール地点の飯野堰堤公園は春には桜並木、秋には紅葉を見ることができるスポットだ。

③ 駒桜コース

4 駒桜
樹齢約500年以上のエドヒガンの巨木で、8分咲きから満開になると、白色を帯びた淡紅色の小花が巨木を飾ります。

3 川尻町 小中公民館
このコースの中間地点！もう少しで到着！！ファイト！！！！

2 御霊神社
元禄二年（1689年）の御創建。「復興の象徴」として再建され、人々の勇気となった神社。

1 おじま交流館
サイクリング出発地！宿泊施設のほか、ピザ焼き体験やバーベキューも楽しめます！（※要予約）

駒桜コース

Google mapのQRコード

おじま交流館から始まり、県北で有名な秋山の駒桜まで続くコース。春になると桜も満開です。神社などの建物も魅力的で寄ってみては？全長8キロ、所要時間約30分。

このコースは上記の2つのコース同様おじまふるさと交流館をスタート地点として、秋山地区の駒桜まで行くコースとなっている。コースの全長は約 8 キロあり、所要時間は約 30 分である。全長は短いアップダウンがあるので中級者用としている。

最大の特徴は目的地点の駒桜である。樹齢 500 年以上あり春の桜の季節には美しい姿を見してくれる。道中には 1689 年建設の御霊神社がある。又、七ツ森林道と呼ばれる美しい林道を駆け抜け、田園風景を見ながらサイクリングを楽しめる。

今後の課題

- ・今年度作成したコースは上級用1つ、中級用2つだった。しかし、1月6日にzoomにておじまふるさと交流館の館長である佐藤さんとミーティングを実施したときに、佐藤さんから初級用のコースも作って欲しいとの要望があった。初心者用コースを作成することによりレンタサイクル利用者の増加を狙いとしている。
- ・今年度はコロナウイルスの影響で川俣町への訪問を断念したことにより、実際にコースを試走したことが1度しかない。そのため、もう1度構成員全員で走り、変更点などを追加できるようにしたい。
- ・まとめると、今後の課題は初級者用のコースを作成することと実際に上記の3つのコースを我々で試しに走ることだ。

第2章 ウェブサイト制作

第2章では、webサイト制作について記述する。昨年のおじま交流館の訪問の際、館長さんとのミーティングで要望のあったwebサイト制作を行った。館長さんからの要望では、おじま交流館の紹介に加えて、ブログやお知らせのできる機能も付けてほしいとのことであった。

完成したwebサイトは以下のURLである。



<https://ojimafurusato.com/>

要望通り、おじま交流館の紹介に加えて、ブログお知らせができる機能も付いている。

作成方法としては、wordpress を使い編集を行った。web サイトは8つのページから構成されている。内容はいかに記す。

①ホーム・・・おじま交流館の概要と写真。施設案内、アクセスのページの記載も行っている。

②施設案内・・・福島県の公式ホームページの内容を参照し、施設の詳細を記載した。

③体験活動・・・おじま交流館の体験活動の記載を行った。

④サイクルツーリズム・・・サイクルツーリズムについての案内とサイクリングコースの記載を行った。第1章で述べたサイクリングコースの案内や、コースマップのダウンロード可能だ

⑤お申込み方法・・・福島県の公式ホームページの内容を参照し、お申込み方法を記載した。

⑥利用料金・・・福島県の公式ホームページの内容を参照し、利用料金を記載した。

⑦アクセス・・・google map の位置情報と館長さんから教えてもらった距離などを記載した。

⑧お知らせ&ブログ・・・館長さんの要望通り、お知らせ&ブログのページを作った。

完成後、館長さんとのオンラインミーティングを行い、確認、改善点を聞き、修正を行った。お知らせ&ブログの使い方についても、オンラインミーティングの際に、お伝えし、今現在投稿をしてもらっている。

これからの web サイト運営に関しては、館長さんの投稿を継続してもらい、サイクリングコースなどのページについては、アップデートや追加があれば随時変更していく。

第3章 館長さんとの会談

第3章ではおじまふるさと交流館の館長、佐藤さんとの会談について記述する。

2020年1月6日に福島県川俣町おじま交流館館長、佐藤さんと ZOOM を用いてオンラインで会談を行った。当初、1月上旬に予定していた訪問の予定が新型コロナウイルスの影響で中止となった代替案である。主な目的は3つ。

- ・昨年に引き続き取り組んだサイクリングコースマップの進捗と、それに関し追加の意見を頂戴する。
- ・今季新たに取り組んだ、おじま交流館のホームページ作成の進捗報告とその機能説明。
- ・来年度に向けて、本プロジェクトチームが新たにに取り組むことができる企画の選定。

その他、現在の交流館の利用状況や、町の方との交流など、今後のプロジェクト運営において役立つと思われるお話も伺うことができたので、その内容も以下に示す。

プロジェクトチームが作成したサイクリングコースマップに関しては概ね満足していただけた模様。しかし、その中でマップ内に写真や信号の表記を追加するなど、県外の方が訪れた際にもよりわかりやすいマップにして欲しいというご意見を頂き、今後改良予定。また、作成した3つのコースのうち起伏の多い長距離のコースが多かったため、サイクリング初心者向けに1時間ほどで完結する短距離のコースの作成も今後取り組んでいきたい。昨年度からサイクルツーリズムを始動しているが、自転車の利用率は悪いのが現状である。その理由として、PR不足が挙げられる。受付の際にサイクリングが出来ることを紹介はするものの団体で来訪される方たちが多いため、事前に行程表を組んで来られる。そのため、受付の際に紹介するだけでは中々使用されにくい。この問題を打破するために、この度作成したウェブサイトや道の駅にコースマップのチラシを配布するなどしてPRしていくことが重要であると考えられる。

作成したウェブサイトに関する改良点は、今後連絡を取り合い適宜指摘していただく予定。また、会談内ではブログの機能を説明し、ホームページ運営に役立つ情報をお伝えすることができた。今後、このウェブサイトを活用し、おじまふるさと交流館で行う活動や地域の方々との交流活動を発信していきたいとのことだった。

現在、交流館の利用率は新型コロナウイルスの影響で低くなっている。昨年3月ごろまでは、主に地域の方々を中心に利用者も多数。中には県外の劇団の方々にも遠征先として利用があった。また地域の方々には、BBQ、流しそうめん、ピザ焼きなどのアクティビティにも交流館を活用していただいている。これらのアクティビティに交流館が利用可能であるという情報は口伝えで伝わっているようだ。今回、本プロジェクトが加わったサイクルツーリズムについては未だ浸透しておらず、アクティビティに利用可能であることも含めてチラシなどで広報していく必要がある。

昨年、交流館 2 階のプレイルームの清掃も大変喜んでいただいたが、それに引き続き小学校の教科書を集めるなど新たな活動にも活用されている。その他、アンスリウムを始めとして地域の方々に寄付された葉牡丹、菊、グラジオラスなどの花々の植栽、クリスマスシーズンのイルミネーション、お正月に”水ぬき(団子)”を作る行事など、様々なことに積極的に取り組まれている、とお話を伺うことができた。

今後の方針として、以下 3 点を行っていくことで佐藤様と認識を一致させることができた。

- ・上記で述べた、サイクリングコースのコースマップの修正・ショートコース作成。
- ・地域の方々向けにアクティビティのチラシを作成。
- ・以前はため池として活用されていたものの現在は植木鉢をおくことでのみ使用されているおじまふるさと交流館の中庭の活用方法の思考すること。

以上 3 点を行うことで福島県小島地区おじまふるさと交流館周辺の発展に寄与していく所存である。



第 4 章 福田地区の現状、今後の展望

第 4 章では福田地区の現状及び今後のプロジェクトの展望について記述する。

川俣町福田地区（秋山）は我々の担当地域で研究活動を続けてきた場所である。当初福田地区での民泊などを検討したが、実現が難しく、宿泊・サイクリング拠点はおじま交流館とすることにプロジェクトを修正してきた。これまではサイクルツーリズムで地域への関係人口増加を目指し、福田地区の名所の1つである駒ザクラを通るコースマップを考案してきた。

福田地区の方々には訪問のたびに芋煮、バーベキューなどを企画していただき、重ねるにつれて心を開いた交流ができるようになってきた。それを通じて地区の状況や住民の方の気持ちなども少しずつ理解できるようになってきた。しかし、福田地区の方々と交流していく中で疑問が生まれてきた。

- ・関係人口は増えても地域の方々に直接的な恩恵はないのではないか。
- ・地域の方々が求めているものは日々の生活での幸福度を高めるものではないか。

以上のことが交流していく中で伝わってきた。そこで我々が地域の方々と深く交流することで幸福度が少しでも高められるのではないか。ということだ。なぜなら、地域に訪れるサイクリング客を増やすことには時間も要し、直接的な恩恵は得られていないのが現状だ。

本来であれば対面での懇談会を希望していたが、昨今の状況下でそれは難しいと判断し、オンライン懇談会を開催することに決定した。高齢の方が多いためからいくつかの問題があった。

- ・ネットワーク環境が整っているのか。
- ・Zoom アプリが使用できるか。
- ・小さなパソコン画面を1時間以上見つめることが高齢者の方に可能か。など

ネットワークの環境は橋本様宅であれば問題ないことがわかった。そのため橋本様の自宅から接続することを提案した結果、承諾が得られた。その後、橋本様の積極的な協力のおかげでテスト接続も問題なく行えたので、本番でもスムーズな接続ができ、オンライン懇談会は無事に終了した。

しかし、今年度は試験的にオンライン懇談会を行ったので少人数規模での開催だった。本来であれば地域の方々皆様との交流を希望していた。そのためにはやはりネットワーク環境と大きな画面が必須になる。そこでノートパソコン

とプロジェクターを福田地区の集会場に導入することで次回からはより大きな規模でのオンライン懇談会が開催できると考えている。

懇談会での目的は地域の方々との交流と来年度以降の活動で福田地区との新事業を起こすべく、案を導くための機会だ。本来であれば1月8日に開催する予定だったが地域の方々との予定が合わず、1月17日に延期となった。

- ・コロナ禍でどのような生活をしているのか。
- ・コロナウイルスが蔓延する前は毎年の恒例行事のようなものがあったのか。
- ・地域の自慢できるところを教えてもらう。
- ・生活していて不便を感じるころ。
- ・我々と実現させたいこと。

以上の事柄を主体に懇談会を進めた。このような懇談会は2年前にも開催しているが、以前と比べると我々の焦点は変化している。今回の懇談会を上手く活用し、来年以降の活動に役立てたい。そのためには心機一転した活動を福田地区の方々で行う必要がある。

我々が現在考案しているものは福田地区で毎年10月に開催されている祭りに参加させて頂き、近大×川俣町福田地区として共に行事を開催して例年とは異なる変化を与えたいと考えている。その変化のひとつとして地域の橋本様がたこ焼きパーティーを我々で行うことを大変楽しみにされている。このたこ焼きパーティーを是非祭りの中で行いたいとお願いしたところ、快く受け入れて下さった。これをきっかけに福田地区で大阪の名物を持ち込むことで地域の方々の幸福度を上げるきっかけになるのではないかと考えている。

もう一つ、懇談会の中で川俣町の中で行っている取り組みで「村おこし協力隊」というものがある。この取り組みを近畿大学で告知することで学生からの参加者を募りたいとのことだった。目的としては1年から2年単位で「村おこし協力隊」として川俣町に移住してもらい、地域のお仕事のお手伝いをしながら田舎暮らしの良さを見出してもらうことで将来的に若者の定住者を増やすことである。この取り組みを促進させるために我々が学生と川俣町の架け橋となることが今後の展望である。そのために希望者にはオンラインの説明会などに

参加してもらい、橋本様ご本人にプロジェクトの概要を説明して頂くなどのことを行なっていきたいと考えている。



2年前の活動時にご招待して頂いた芋煮会とオンライン懇談会の様子

第5章 来年度の活動予定

サイクルツーリズムに関して様々な改善点がある。具体的にはコースの長さに関する問題点などだ。私たちの提案したコースでは、所要時間が長すぎる、アップダウンが激しすぎるなどから利用者をより増加させるには、所要時間が1時間以内のショートコースを提案することが必要だと考える。

もう一点がクロスバイク及びロードバイクを新たに数台導入することだ。今年度で新たに3台導入で合計5台になった。しかし、団体客の多い交流館では台数が少な過ぎるため、少なくとも今後5台以上は導入していきたい。

交流館での来年度の活動は主に2つだ。交流館で行っているアクティビティ（流しそうめんやピザ焼き体験など）の広報活動及び交流館内の中庭（添付写真）の活用方法について模索する予定である。アクティビティの広報方法としては交流館のホームページでのアクティビティの広報と来客者向けのチラシ作成で進めていく予定だ。

中庭に関しては以前小学校の校舎であったため池として活用されていたが、現在は給水と排水が全く機能しなくなったため鉢植えなどを置いたりしている。日が差し込むことを利用して居心地の良いスペースとしてリノベーションしていく予定だ。

福田地区では祭りへの参加と「村おこし協力隊」募集の促進が今後の展望となっている。祭りに関しては大阪名物を福田地区に持ち込み我々と食事することで日々の生活の変化を生み出し、彼らの幸福度の向上に繋げていきたい。「村おこし協力隊」に関しては募集者を近大で募り、学生の方々には年単位で

のインターシップのような形で参加して頂きたいと考えている。尚、生活費は全て川俣町から支給される。

